

桜花片々

躍動編

その1

座談会

出席者

前校長 山中 順三

第2回生 戸嶋 正夫

第6回生 三浦 正雄

司会 編集部

厳格の佐々木校長落第もきびしく

山中 私の就任は昭和八年、牟岐先生と一緒にでした。専任校長のいない時

でしたので辞令は事務の只野先生からもらいました。その時は只野先生を教頭かと思いました。

司会 佐々木校長の就任はいつ頃なんでしょうか。

山中 私どもよりちよつと遅れましたが、同じ四月でした。

司会 佐々木校長就任時の印象などをひとつ……。

山中 最初の職員会議はえんえん三時間ぐらい続きました。先生は雄弁家でしたからね。とうとうと教学の大方針を述べられて最後に、今述べたことに反対の方はすぐ退職願を書いていた。だいたいと言われました。帰りに一緒の同僚が、こりやとでも勤まりそうがない。イヤ僕だつて駄目だ、なんて話したことを覚えてます。

戸嶋 五十二才で着任された。厳格

で聞こえる長野中学から来られたのだからね……。

山中 着任早々にやられたことは生徒心得の整理、諸規定の作成でした。

戸嶋 落第もキビシクなりましたね。十年頃は、在籍四百名の中五十数名が原級だった。

山中 小林教官の意見なども強く出たんですが、一割五分の原級は多かったですね。八回生などひどかったです。百八名の入学者が卒業時には五十数名になったのですから……。

三浦 卒業学年にも原級者が出て、友人の助命のため職員室に談判に乗り込んだのもありました。

戸嶋 しかし落第した者も割とついてきたものと思う。簡単に学校をやめたり、ぐれたりということは少なかった。

三浦 暖かい友人関係が救いだっただと思いますね。

山中 当時の生徒は友人のために一肌ぬこうというところがありましたね。利己的でなかったですよ。

司会 学校行事は、どんなものがありましたか。

三浦 寒稽古、岩手登山、岩手公園での運動会など、忘れられませんね。

戸嶋 卓苗校長時代からの登山は、やはり佐々木校長も継続されました。

三浦 霧がかかっている何合目あたりでしたか、山肌をはって登ったことを覚えてます。二百十日前後のことでした。

山中 七月と九月と二回に分けてやりましたね。

やる、やらせるの気持が合致

司会 寒稽古はどうでしたか。

三浦 酷寒の頃二週間やるわけですから、希望者がそのどれかに出ました。

戸嶋 午前五時開始だったから、四時頃には起床というわけですよ。

三浦 稽古後の爽快さはまた格別なものでしたな。

司会 先生方も出ましたか。

戸嶋 校長も出てきましたし、生徒に交って一緒に稽古やる先生もいました。牟岐先生など毎日出てきて柔道をやりました。

山中 終りの日には汗粉が出たね。

皆勤者にはメダルと賞状をくれました。

司会 三浦さん、教室での思い出はありませんか。

三浦 あります。山中先生からディクテーションをやらされました。先生は慶応ボーイ、紳士で……。

山中 イヤ、とんだ紳士でした……。

(笑)

三浦 とにかくペラペラやられるのを書けるようになったのですから……力をつけていただいたわけです。

戸嶋 早朝、希望者に一題ずつやらせるようなことしてましたね。

山中 人数が少なかったからやれたんですね。

三浦 五十嵐先生の英語は、時間の初めに予習をやってきたかどうか調べ

られるので閉口しました。予習が十分でない時は落着かなかったものです。

教室での座席は成績順、学期毎には成績順位を雨天体操場に張り出されましたね。

戸嶋 しかし、やることに血が通ってましたね。

山中 やる。やらせるの気持が合っていました。

司会 校長先生は何年生から教えられましたか。

山中 四回生から教えました。

司会 では五回生の三田循司さんにも教えられたわけですね。

山中 そう、あのクラスには海兵にいった一条次朗、東大にいった熊谷竜男などいました。

司会 三田さんは太宰治と親交があったのですね。太宰の「散華」は三田循司論、何度読んでも飽きない。

山中 三田君は二高、東大と進んだんですがね、一時寄宿舎にいました。

二高の入試にはディクテーションがありましたから、每晚英語の先生を回ってディクテーションの練習をやるわけです。舎で僕のが済むと五十嵐先生、それから秋山先生、自室に帰ってからレコード。どんなリーダーングをやられてもい、ように、絶対の自信をつけたわけです。

司会 一条さんについては？

山中 一条君の前八年間というもの、岩手から海兵合格がなかったですね、

八年ぶりの合格者というわけですよ。

司会 なみの秀才ではなかったのですね。

戸嶋 そう、その後金沢修一、佐々木晃、宮静孝など、一クラスから陸士三人組が出るようになったのですから、学力向上に熱が入っていたわけですよ。

三浦 宮君は陸士卒業の時、剣道の御前試合をやったんですね。抜群の腕前だったんです。

山中 あの頃の勉強家たちは皆運動の選手でもありましたね。一条はスキ一の選手、三田は高跳、熊谷は柔道をやりましたしね。

司会 世相はきびしく、学園主義はそろそろ変貌期を迎えることになりましたよ。うか？

戸嶋 制服を国防色にしたり、職員会議でも「国体明徴」の小冊子を輪読するようにになりました、草創の頃とは大分違う世相になってきていたわけですよ。

軍事教練三県下最優秀で

秩父宮台臨の栄

司会 校史によれば昭和十年にはいろいろなおことがあったようですが……

戸嶋 軍事教練査閲が大きな思い出だ。秩父宮殿下の台臨があり……それはもう想像を絶する大事件だったわけですよ。

司会 どうして岩中が特に選ばれた

のですか。

戸嶋 軍事教練の成績が優秀だったからですよ。殿下が岩中台臨と決ったところが、公立へはなぜ台臨なさらないのかとの声も出ました。教練成績県下最優秀だったですからね。

山中 県下はもとより、八師団管下で一番よろしいということだったですね。青森、秋田、岩手の中から選ばれたのです。

司会 直宮様のお成りとは大変なことだったわけですね。

山中 弘前滞在中の大矢盛岡市長さんから最初に学校長宛に秘親展で台臨内報がありました。無上の光栄、大いに御奮励、名声を中外に發揮せられんことを祈る……などと、市長さんも大感激してるんです。

司会 確報はいつごろ……。

山中 十一月七日台臨するという公式通牒は十一月に入ってからでしたが、新聞が一カ月も前から書きたてましたから、内報のことは生徒にも伝え、それから生徒も職員も感激、緊張し、全校一丸となってその日に備えたわけですよ。

司会 その頃三浦さんは何年生でしたか。

三浦 五年生で最上級生でした。各自タワシや雑巾を持参してボロ校舎に石けんをかけ、一カ月の間に八回も大掃除です。すみずみまで徹底した掃除でした。

司会 当時の軍事教官はどなたでしたか。

三浦 小林教官でした。きびしかったですね。作戦要務令なんぞ……つまり将校になる資質を教育されたわけです。教練は必修でしたから。

山中 台臨の時は村井権治郎教官に、かわってましたね。秩父宮に「こ、は私立だが物質的に恵まれてるね」と言われて、村井教官は返答に困ったそうですよ。

三浦 あの時わたしは分隊長をやらされましたが、身がひきしまるとはあのことですね。

山中 今の生徒には理解出来ないです。直宮様が来校するといつても……とにかくあの緊張、感激、その効果は大きかったと思います。

戸嶋 わたしは十年九月に就任しましたが、台臨当日は紋付かモーニングだと言われ父のを借りた。しかし着てみたら短いので誰かからまた借りました。山高帽もかぶらねばと借りたが、教練中はかぶりもせずに持って歩いた……みんな借り物でした。

山中 宮様を最初にみたのは高橋ラッパ手ですね。列の先頭で到着合図のラッパを吹いたんですから。ラッパさんはそれをよく自慢してましたよ。

全快祈願空しく三田義正翁逝去

司会 では台臨のことはこれくらいにしまして……。三田前理事長のこと

に移りたいと思います。

戸嶋 昭和十年はよいこともあったが、三田翁の逝去という悲しいこともあった。

司会 三浦さん、義正翁の思い出は？

三浦 大晦日の早朝でしたが、三田さんが危篤だからすぐ来いとの電話で、飯も食わないで学校に行きました。クラス代表の者達でしたが島軒先生に連れられ、自動車で川留稲荷さんに行きました。全快祈願です。翌日新年拝賀式の終ったところで校長から翁の死を知らされて、ガク然としました。

司会 巨星落つ之感ですね。

三浦 お通夜にも行きましたが、台臨の日には先に立って「さア皆さん……」と、あんなに元氣だったのに胸がせまりました。

山中 宮様台臨でずいぶん心労されたいです。弘前に御礼言上に行つての帰りに大鰐に寄つたそうですが、その時村井教官に「疲れた」ともらされたそうです。

司会 翁は多忙の身で、学校にみえることも少なかったでしょうが……。

三浦 そんなには来られなかったですが、壇上からお話されたことはおぼえてますね。

戸嶋 理事長から米をもらって大志田まで行った連中がある。そこで草刈り、魚とり、水泳したり、自然を友とする生活だ、もちろん希望者を数班に

分けて教師がついて行ったのだが……

同期の新渡戸君の話だと、理事長も数回そこへ行かれたとのことだ。

三浦 勤労精神を培うためにと、校舎の前にブドウ棚をつくつたりしました。

山中 桐の苗木は貰いませんでしたか。植林に興味を持たれて、生徒に三本五本とわけたこともありです。津田仙の学農社に学んだだけに、近代宮農には関心があつたのです。三、四回生あたりがわりと翁に接したと思います。その後は貴族院議員で東京暮らしが多かつたですね。

三浦 火薬庫の火事では類焼がなく、さすがとの声でしたね。

山中 それから花火売ることやめたんです。火事は花火の自然発火でしたから。

司会 戸嶋先生、翁の思い出は……。

戸嶋 叱られたことがある。校庭の大きなケヤキに砲丸を投げて遊んでいた……ボクではなかったが……(笑)穴があいた。それで集会の際に、木を大切にせよとやられました。

山中 遺言は三時間もやりました。数字までつきり示し、最後まで頭はしっかりしてましたね。

司会 翁の没後二年で校舎移転ですな……。

山中 前理事長時代から話はありませんが……葬儀後現理事長は社の幹部を集めて、新規事業はしない、ただし

校舎新築だけはすると言われ、そこで決まったわけです。

戸嶋 移転作業は十三年二月十二日、雪の中、生徒は机、椅子を各自に運び、雨天体操場や宮様台臨の部屋は解体してソリで運んだ。島軒先生が指揮したが、材木町の曲りで店につつ込んだりした。

山中 カマボコ型独立講堂、実験室、階段教室など、当時としては誇れるものだったので。

司会 この校舎も丸三十二年ですね。三浦さん、感懐いかがですか？

三浦 わたしは大沢川原校舎で卒業しましたが、新装の校舎をみて、後輩のために喜びました。近代感覚に溢れてると思いました。新感覚は建物ばかりじゃなかつたと思いますね。

戸嶋 岩中生が率先してやり始めたものが多いね。

三浦 いち早く兵式体操とおさらば、ラクビー輸入とか……、運動会の仮装などもね。今でこそどこでもやつてるが……。

山中 学校新聞なんかもそうですね。早いですよ。

司会 ではこの辺で……。